

令和5年度 第3回 学校評議員会

日 時：令和6年2月28日（水） 8時45分～10時55分（授業見学含む）

場 所：本校会議室

出席者：学校評議員6名 学校職員11名

1. 開会

2. 学校長挨拶

- ・ 去る10月28日 高校100周年記念式典・記念講演会を実施。エアコン・天文台など学習環境整備への協力等も含め、同窓生の皆様に感謝したい。
- ・ 今年度のまとめとして、学校より活動を報告し、来年度に向けて評議員より意見をいただきたい。
- ・ 定期考査が終了し、卒業式に向けて準備をしている。コロナ禍の高校生活を送った生徒なので、高校全校生徒、保護者参列で実施し、盛大に送り出したい。
- ・ 2月22日には中学総合文化発表会を実施。来週、高校生の一人一研究、課題探究の発表会を予定。
- ・ 高校3年生の進路について
総合型選抜等で合格者が増えてきている。課題探究など高校時代の学びや活動を進路に活かせる生徒が増えてきている。
- ・ 入学者選抜について 本校の活動や学校の様子を中学生にどう伝えていくか課題として考えている。
- ・ SSH 先導改革型I期最終年度。更新申請で文部科学省のヒアリングを実施。信州大学との提携・支援は高く評価された。コロナ禍で途絶えていた海外研修をオーストラリアで実施。

3. 学校からの説明

(1) 附属中学校の取り組み

- ・ SSHの関連学習（講演会等）については中学生も年間6講座を受講した。
- ・ 県外からの視察等は今年度も多数受け入れた。
- ・ オンライン授業・探究学習日は職員も校外からの配信など、オンラインでしかできない授業を工夫。
- ・ 朝学習やCSSなど自習環境については、高校生に学習を教えてもらう機会も設け、体制が充実してきた。
- ・ 2月22日実施の総合文化発表会では、一年間の学習成果を保護者や地域の方に伝えることができた。
- ・ ボランティア活動や各種コンクールでも生徒が活躍した。

(2) キャリア教育

- ・ ほぼすべての3年生が無事共通テストを受験した。生徒の9割以上が5教科型。科目を絞らず総合力で勝負。
- ・ 理系科目の成績が昨年度より上昇した。
- ・ 難関大への出願が増加傾向。（北海道、東大、東工、京都、慶応、上智など）
- ・ 北陸地区、長野県内公立大への出願が減少傾向。
- ・ 学校推薦型、総合選抜型受験の合格者が増加。
- ・ 2月25日 国公立二次前期試験を受験、現在は中期・後期に向けて準備している。

(3) 生徒指導

- ・ 交通安全に関する講演会、SNSトラブル防止の為の講演会、職員による街頭指導4回を実施。
- ・ 地域から要望（横断歩道の渡り方、自転車通行について）

- ・校内での指導事案はなく、生徒は落ち着いた学校生活が送れている。
 - ・自転車運転ヘルメット着用 of 努力義務化に関わって、今年度から注意喚起を強化。来年度からは自転車通学を許可する際に、ヘルメット購入を義務化する。
 - ・SNSトラブルは大きな事案はなかったが、引き続き注意を継続していきたい。
- (4) 生徒相談
- ・生徒相談の事案が年々増加傾向にある。
医療機関とつながりを持つ生徒も多い。(学習や自分自身の悩みが多い)
 - ・毎週、係で会議をもち、生徒の情報共有・支援にあたってきた。
 - ・今後も本校に入学した生徒が本校で卒業できるよう、支援の在り方を探っていきたい。
- (5) 生徒会
- ・コロナ禍で中止されていた稲荷山養護学校との交流会を実施。
 - ・能登半島地震被災地への募金活動を実施。
 - ・他校生徒会との交流や共同行事も積極的に取り組んでいる。
- (6) SSH
- ・今年度も校外での発表、コンテスト等に生徒が多数参加。
 - ・探究学習については授業、班活動とのバランスをとりながら進めた。高いレベルの探究を実践できている生徒には校外での発表やコンテストへの参加を勧めてきた。
 - ・オーストラリア研修を立ち上げ、12月に実施。コロナ禍よりオンラインで交流し、準備を進めてきた。3月のSSHフォーラムにて研修報告。来年度以降も希望者が増加することを期待。
- (7) 学校評価について
- ・評議員の皆様からのアンケート結果を踏まえ、今後の学校づくりをしていきたい。
 - ・職員アンケートでは、「学校づくり」で信州大学との提携もあって高い評価となった。
 - ・コロナ禍から通常に戻していく過渡期中で、行事の精選を行ってきた。

4. 学校評議員からの質疑及びご意見

○ご意見

- ・新聞記事等にも屋代高校・附属中学校の活動の様子が伝わっていると思う。
- ・長野市南部の中学生は高校選択の選択肢が多いので、周辺の中学校と交流できる機会があれば実施してはどうか。
- ・大学入試では公立中期試験を活かそうという生徒数は多いが、長野県内の公立大への出願が少ないことについて、県内公立大学の良さを知らせてもらえる機会を取るのがよい。
- ・普通科の魅力の発信が大切。例えば、生徒会役員も普通科の生徒の活躍が発信できるとよい。新聞を読まない家庭も多い。SNS等を活用していくのも必要な時代か。
- ・理系の学習成果が出ているのを嬉しく思う。大学も理系、文系に分かれない分野を新たに創設するなど、改革を進めていく流れがある。海外に負けない人材を育てる必要がある。学校づくりの中でこのような点を意識すると良い。
- ・理系の中の男女比率に変化はないか。大学でも理系に進む女子比率を増やしている。地道に取り組むことが重要である。
- ・共通テスト結果について昨年度との違いをどう分析しているか。
- ・文系、理系で分けているのは日本だけ。屋代高校はSSH、理数科など理系を高めていると思うが、理系・文系という見方ではなく、STEAM教育の流れからも相対的に見て何を伸ばしていくのかを考察してほしい。

- ・中学校の新たな取り組みに感謝している。
- ・生徒指導面については落ち着いた学校生活を送れており安心した。一方で、生徒相談の面で、心に悩みを抱えている生徒や人との関係そのものに不安を持っている生徒が増えてきている。生徒支援の取り組みに力を入れていくことをお願いしたい。
- ・新聞等で生徒の活躍を見て、嬉しく思う。学習面はもちろん、生徒会活動での稲荷山養護学校との交流など頼もしいと思った。
- ・大きい問題はなくても悩みを抱えている生徒がきっと多い。そういった子どもたちの支援をお願いしたい。
- ・交通安全については自転車等の大きな事故がなくよかった。

○校長より1年間のまとめ

- ・地域の中学生に、本校の取り組みについて情報が行き渡らない部分があるのだろう。そこを改善していきたい。屋代高校でなければ送れない高校生活があることを発信できるようにしたい。
- ・文理総合型の学習について、文系科目にもデータサイエンスの視点を取り入れたり、理系科目にも社会的なアプローチを取り入れるなど、総合知の育成を工夫していきたい。
- ・生徒支援については、SCとの連携や学年との情報共有などを充実させ、チームとして取り組めるように工夫したい。

5. 諸連絡

6. 閉会